

住まいと健康 フォーラムニュース

発行者：住まいと健康フォーラム事務局 第52号
〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6 国立保健医療科学院 建築衛生部 '06.5.8.
TEL 048-458-6248 (鈴木) 048-458-6249 (阪東) FAX 048-458-6253

2006年『住まいと健康フォーラム』 総会及び全国フォーラム開催のお知らせ

日時 2006年6月30日(金)
総会 午後1時30分～2時
全国フォーラム 午後2時～5時

場所 国立保健医療科学院
(埼玉県和光市南2-3-6)

テーマ コミュニティと「住まいと健康」

子どもを対象とした犯罪の増加、高齢者の社会的な孤立など、コミュニティの崩壊による社会生活の問題が顕在化しています。「住まいと健康」問題もコミュニティの力によってその解決が大きく左右されます。

今回は住まい単体の問題だけではなく、住まいが社会的に孤立している現状から、コミュニティと「住まいと健康」問題の関係を考えたいと思います。

コミュニティ研究の第一人者である首都大学東京の玉野和志先生の基調講演と、保健所からの現場報告を踏まえ、参加者で議論を深めたいと考えています。

皆さんの多数のご参加をお願いいたします。なお、会員以外の方の参加も歓迎します。今回のテーマでは、住宅やまちづくりの行政担当者にも興味深い内容になりそうです。周囲の方にお知らせして、お誘い合わせてお越しくください。

※本企画は「住まいと健康フォーラム」が主催するものですので、お問い合わせ等は国立保健医療科学院ではなく「住まいと健康フォーラム」事務局(鈴木宛)をお願いします。

TEL 048-458-6248 FAX 048-458-6253 なるべくFAXでご連絡ください。

「住まいと健康フォーラム」ホームページ

「住まいと健康フォーラム」のホームページが立ちあがりました。今までのニュースをPDFで見ることができます。また、過去の全国フォーラムの概要も掲載しています。今後も充実を図っていきます。

アドレスは

<http://www.now.mfnet.ne.jp/~sumaitokenkou/>

ぜひご覧いただき、活用してください。

皆様はじめまして

今から“お風呂ネットふくい”（福井のお風呂と健康を考える会）の紹介をします。今回鈴木晃先生とのご縁でこのニュースレターに登場することになりました。



突然ですが、「イネ（稲）ックス」「ゆ快」「ごくらく湯」「ほのぼのお風呂店・イズミ」「湯～モア」「お風呂情報館」・・・さてこれは何でしょう？・・・

実は今年1月、“お風呂ネットふくい”の発足時に福井のお風呂の問題を考えようとワークショップを開催した際、参加者で考えた架空のお風呂メーカーの社名です。ワークショップでは全員が社員となってリサーチや商品開発を検討しました。ゲーム感覚でしたが、みんなで真剣に考えました。浴室の位置・構造・温度・湿度、入浴のスタイル・習慣・コスト・エネルギー、身体の問題、楽しみなどいろんなリサーチの方向が出されました。また、浴槽で意識喪失した際の浴槽排水自動システム、脱衣かごと温風器のセット商品、浴室のドアで自動身体状況チェック、身体状況にあわせた自動浴室温度設定装置の開発など、とても専門的なもの、ユニークなものいろんなアイデアが出てきました。最後に「自分が勤めたい会社は？」とアンケートしたところ、キャンペーンガールが登場して“この世の極楽”をめざして温度差解消・身体情報の把握・自然エネルギー仕様をあわせてセット商品を提唱した「ごくらく湯」が人気 NO.1 になりました。

発足時には、上記のワークショップのほか、国立保健医療科学院 鈴木晃先生、北海道大学 羽山広文先生に、全国の情報、北海道での取り組みなどをお聞きしました。

また心理学的な面から、福井大学 氏家靖浩先生は、ご自分のお子さんとの入浴シーンの写真を大画面で披露しながら、入浴そのものの心理的な効果についてもお話してくださいました。

＝ “お風呂ネットふくい” とは＝

“お風呂ネットふくい”（福井のお風呂と健康を考える会、会長：福井大学寺沢秀一）は、「天寿を全うするまで楽しくお風呂に入ろう！」を目指して今年1月29日に発足した有志の会です。

福井県は男女とも平均寿命全国第2位の長寿県で、健康長寿をブランドとして全国に発信しており、当衛生環境研究センターも研究の一翼を担っています。健康長寿を推進していくうえで解決すべき問題点のひとつに入浴の問題があります。そこで当センターが国立保健医療科学院、北海道大学、福井大学の先生

に呼びかけ、多方面の方々と相談しながらこの会を作ってきました。最初は行政の声かけから始まりましたが、活動の幅の広がりなども考えて有志の会として発足しました。会の発足時には、医療・介護・福祉・保健・看護・建築・心理・消防などを専門とする、大学の先生・現場の方・メーカーの方・県や市の保健福祉分野の担当・社会福祉協議会・NPOの方・学生など70名程度が集まりました。このように産官学が一同に会したのはとても画期的なことだと思っています。せっかく集まったのだからみなさんで考えましょうとワークショップを開催したわけです。

＝どうしてお風呂なの？＝

入浴には楽しみだけでなく、意外な落とし穴があることはあまり知られていないようです。

人口動態統計調査の死因を見ると、浴槽内での溺死は年々増えており、福井県も例外ではありません。医療や介護の現場の方などからは入浴前後に急に具合が悪くなる人も多いとお聞きします。しかし明確なデータがなく実態はわかっていません。寒さや脱衣場・浴室・浴槽の温度差が問題ではないかという意見もありますが、明確な根拠となるものはありません。そこで、お風呂のことを改めてみんなで考えようとネットワーク結成に至りました。

＝“お風呂ネットふくい”の今後＝

フォーラムの結果を参考にして、①入浴前後の健康問題発生の実態調査、②浴室空間の環境の分析、③入浴の実態や意識調査、④入浴行為の文化的背景と心理的影響、⑤北陸地方にあった浴室設計の提案、システム開発などの研究をしたいと考えています。

そしてその成果を県内だけでなく、全国に向けても発信するつもりです。

また「健康長寿な福井」の実現にも貢献できることを目指しています。現在、ホームページ開設の準備もすすめています。

ところで、昨年から今年にかけて福井は豪雪で本当にたいへんでした。

寒さと毎日の除雪作業での疲れを癒すのは「お風呂」でした。福井の人は普段からお風呂好きで、行きたい旅行先の第一位は「温泉」、ストレス解消に入浴する人が多いという報告もあります。

福井県民にとって「お風呂」は大事ですし、「お風呂」はだれもが毎日入ることなのでみんなで気楽に考えようというのが会の目的です。自主的な会なので、かたちに縛られない自由な会として、今後楽しく継続できればと思っています。「お風呂」がキーワードですが、「お風呂」だけではないおもしろいつながりもできつつあります。

当衛生環境研究センターは、さまざまな角度から健康長寿推進に向けての研究を行っていきませんが、“お風呂ネットふくい”のおかげで関係機関との連携が取りやすくなり、ネットワーク構築に携われたことは大きな収穫と思っています。

“お風呂ネットふくい”では今後全国の方々と情報交換したいと思っています。全国の「お風呂」に関心があるみなさま“お風呂ネットふくい”で「お風呂」について一緒に語りませんか？

(ホームページができれば紹介いたします。)



ワークショップ風景
(2006年1月)

事務局だより

本年度の公衆衛生学会の際に予定している自由集会(「住まいと健康」 富山フォーラム)では、斉藤さんのご報告も含めて、お風呂をテーマに「住まいと健康」を考える自由集会を考えています。

今年の公衆衛生学会の日程は10月25日(水)から27日(金)まで、場所は、富山県民会館・国際会議場を中心に開催されます。

公衆衛生学会に参加される方、付近自治体の方はぜひご参加ください。

詳しい案内は、後日お知らせいたします。

住まいと健康に関する、各地の自治体の取り組みについて、情報をお待ちしています。様式は問いませんので、事務局までご連絡ください。ニュースやホームページで公開します。

みなさんの情報提供をお願いいたします。

事務局

〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6

国立保健医療科学院 建築衛生部 健康住宅室 鈴木 晃・阪東美智子

TEL 048-458-6248(鈴木) FAX 048-458-6253

事務局不在のときが多いので、ご連絡はFAXでお願いします。